	教育心理学	担当教員：渡邉仁	2単位

設　題

下記の課題について、レポート評価の観点の内容を含めながら、レポートを作成して下さい。また、レポート内で文献を引用した場合は、下記のように引用した本文の文末に（）を用いて引用文献の著者と発行年を記入し、巻末に引用文献のリストを記載して下さい。

＜本文中の引用文献の表記例＞

～であると考えられる（渡邉，2023）。

＜引用文献リストの表記例＞

渡邉仁　2023　高校生の学校への適応感と教師との関係の検討　北海道情報大学紀要，35，1-11.

1.先行研究のレビュー

教育に関わる問題や現象を1つ取り上げ、Google Scholar等を用いて教育心理学に関わる先行研究を検索して外観し、レビューを記述してください。

※教育心理学に関わる先行研究：本レポートでは研究対象を中学生または高校生に限定し、教育に関わる問題や現象を心理学的（例：アンケート調査やインタビュー調査等）に明らかにしたもの。

★レポート評価の観点（引用文献リストを除いて合計文字数1,200字から2,400字）

(1)テーマ名（例：いじめ問題）

(2)なぜ(1)をテーマに選んだのかという根拠

(3)先行研究では何が明らかになっていたのか

(4)先行研究では何が明らかになっていないのか

(5)先行研究から教育現場では何を活かせるのか

2.事例検討

学習プリントや先行研究を通して、以下の事例に対して、あなたが教師ならどのような対応をとるのかを記述してください。なお、設定はレポート評価の観点の下に記述しているので、必ず確認をしてからレポートの作成をしてください。

○事例

高校2年生に進学した健斗（ケント）は欠席することは少ないが、クラスメイトとは話さず、いつも1人でいる。また、授業には参加しないことが多く、評価で1がつく教科が毎回出ている。このような状況で、教師はどうしたらよいのだろうか。

★レポート評価の観点（引用文献リストを除いて合計文字数1,200字から2,400字）

(1)担任教師としてどのような対応をとるのか

(2)なぜ(1)の対応をするのかという根拠

(3)教師全体（学校）としてどのような対応をとるのか

(4)なぜ(3)の対応をするのかという根拠

※事後対応だけではなく、このような事例を未然に防ぐために、どうしたら良かったのかということも含めて検討してください。

※選択肢の1つとして、「何もせずに様子を見る」や「生徒の話を聞く」ということが考えられますが、様子を見たり、話を聞いた上で、どのような対応が考えられるのかを具体的に検討してください。

-学校観

都道府県が設置した公立学校であり、職業科2間口の夜間定時制高校である。学校がある市は人口約11万人で、少子化の影響を受けて、市内の高校数も減ってきている。また、以前から入学者数が募集人数を大きく下回っており、間口減または市内の他の夜間定時制高校との統合が検討されている。

1クラス10名から20名前後の全校で100名程度の規模の学校である。また、職業科のため、クラス替えはない。担任は4年間変わらずに担当する場合もあれば、途中で変わる場合もある。

教師集団としては、5年から7年で転勤する教師が多く、数十年転勤せずに勤務を続けている教師は一部である。教頭は昇任して初めての勤務校であり、校長を含めて管理職の教師は2年から3年毎に入れ替わっている。近年、「働き方改革」の一環で、学校内の業務の様々な面で、業務分担が細かく決まっており、合理的に業務が進むようになっている。例えば、担任・副担任・教科担任・生徒指導部・部活動顧問といったように、自分の役割が決まっており、それぞれの間で矛盾が出ないように、基準や考え方も統一化されている。

-生徒観

以前から、生徒指導に従わないような非行生徒が一定数おり、卒業時には入学者数の半分以下になることが珍しくない。さらに近年は、非行生徒に加えて、家庭環境に問題を抱える、精神的に不調を抱える、

基礎学力が身に付いてない、障がいがある等、問題が多様で複雑に絡み合っている生徒が増えてきている。
　生徒の学力は、中学校時代の学習点（内申ランク）がLランクやMランクの生徒からFランクの生徒までおり、不登校を経験した生徒も4割程度いる。また、特別支援学級に所属していた生徒もおり、医療機関による障がいの診断を受けている生徒も受けていない生徒もいる。
　学校生活について、遅刻や欠席をする生徒が多いが、単位の修得条件に影響するほど欠席時数が多い生徒は一部である。一方で、特別活動に対して消極的な生徒が多く、学校行事や宿泊研修、見学旅行等を欠席する生徒も一定数いる。学校行事の企画や運営は生徒会担当の教師が主に行っており、生徒会執行役員は教師の補助という役割となっている。生徒指導事故（喫煙や飲酒等の懲戒処分となるような問題行動案件）は年間に10数件である。

背景
-1年生の学校生活
　入学後は目立った人間関係のトラブルはなかったが、半年くらい経った頃から、仲が良かったクラスメイトのグループから離れるようになり、学校では1人で過ごすようになった。何があったのかをグループの1人に聞いたところ、「健斗は空気が読めない行動や言動が多く、協調性がないし、ムカつく。例えば、中学で特別支援学級に所属していたクラスメイトのことをバカにしたり、自分のことを取り上げた新聞記事を自慢げに皆に見せたりといった行動をしている。だから、クラス全員が健斗のことを嫌っているよ。」と話していた。
　学習活動については、授業中に騒ぐようなことはないが、授業で配られるプリントに取り組まない・スマホを操作・イヤホンで音楽を聞く等、授業に参加しないことが多い。そのため、1年生の前期と後期で評定が1となる教科があったが、その都度補習をクリアして追認が決まり、2年生に進学した。一部の教科担任は、「健斗には授業に参加するように何度言っても、怒っても、全く言うことを聞かない。他の生徒にも迷惑だ。」と担任に話している。
　入学直後からアルバイトをしているが、どの職場もすぐにやめており、長続きしない。部活動にも所属していない。担任や一部の教師とは雑談を交えて話すことはあるが、ほとんどの教師とは授業のこと以外で話すことはほとんどない。

-中学校時代の学校生活
　友人とのトラブルが多く、中学校はあまり楽しくなかったと話す。しかし、学校には毎日通い、テニス部の活動には意欲的に取り組み、中体連にも出場していた。学習点（内申ランク）はKランクで、教科の評定は全て2か1であった。

-家庭環境
　本人・母親（30代）・父親（20代）・妹2人（保育園児・中学生2年生）の5人家族である。父親は厳しく、逆らうことはできない。高校を卒業することを父親と約束をして中学から進学している。共働き世帯で、生活保護等は受けていないが、経済状況は厳しい。

作成方法は「ワープロ（推奨）」または「筆記」	
ワープロ	用 紙 等：本学通信教育部の標準フォーマット・コピー用紙等（無地）
筆　記	筆記用具：特に指定しない 用　紙：特に指定しない
文字数等	それぞれ1,200字～2,400字（引用文献リストは含まない）横書き
注意事項	-文字数を明記 -文献を引用した場合は引用文献リストを記載
その他	